

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第0191600030号		
法人名	社会福祉法人 上ノ国福祉会		
事業所名	グループホーム 勝山		
所在地	北海道檜山郡上ノ国町字勝山136-3		
自己評価作成日	令和5年10月16日	評価結果市町村受理日	令和5年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①春には公園の桜を、夏には打ち上げ花火を、秋には紅葉を眺め、自然に囲まれた中での暮らしができる。</p> <p>②週に2回、温泉掛け流しの入浴を楽しめる。</p> <p>③月に一度、イベントを開催し生活を楽しめるよう支援している。</p> <p>④誕生日当日に誕生会を行い、その方の食べたいものを皆で食事しお祝いしている。</p> <p>⑤昼、夕食前に体操を行い、身体機能の低下を防ぐよう努めている。</p> <p>⑥隣接された特別養護老人ホーム、デイサービスセンターと協力体制が整っており、法人全体でのケアが行われている。</p> <p>以上を踏まえ「心豊かに明日を生きる」を理念に、「一日一笑」を日々の目標にして取り組んでいる。</p>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://u.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191600030-00&amp;Serv">u.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191600030-00&amp;Serv</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年11月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	慣れ親しんだ地域での暮らしを続けながら、「心豊かに暮らす」という理念を共有し「一日一笑」を目標として、管理者と職員は実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策を継続しながらも、近隣への外出や地域のお祭りへの参加などを行っている。また、隣接されたデイサービスの利用者との挨拶、会話、野菜の差し入れなど、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	受け入れの相談などは行っているが、現状では活かすことができていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月毎に開催し、利用者の現状やサービスの実践、評価の取り組みを報告し、事業所だけでなく地域での課題なども話し合い、貴重な意見をいただいてサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者や社会福祉士と日頃から連絡を取っており、相談や現状を伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解しており、毎月の職員会議での確認や、ケア実践時に職員間で確認し合える環境ができています。勉強会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止を取り上げ勉強会を行っている。ケア実践時に職員間で確認し合える環境ができており、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について学んでいる。町の社会福祉士と話し合ったことはあるが、活用した支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に施設を内見しながら疑問や不安について説明している。重要事項についても十分説明した上で締結している。また、解約、改定時も説明した上でサインしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と連絡をとったりお会いする機会には、その都度意見や要望を伺うようにしている。運営推進会議ではその内容を話し合い、ご家族から意見をいただいている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議だけでなく、日常的に職員の意見や提案を聞くようにしている。勤務時間の変更や、支援の方法、イベントの企画などに反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握している。職員の欠員で勤務状況が大変な中、できる限り考慮し対処してくれている。今後はこの状況での勤務を評価していただき、環境を整えることで、より各自が向上心を持って働くことができることを期待する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート開催の研修もあったが、いくつかの研修会に参加する機会を確保できた。また法人内での異動などにより経験を積み、日々の実践の中でケアの向上ができるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での(他の事業所)職員と交流は盛んに行われている。また研修会などで同業者と知り合い、お互いの施設の情報交換などを行ってサービスの質の向上に役立てている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人の意向を聞くように努めている。担当のケアマネージャーがいる場合は本人の思いや話していたことなどを聞き参考にするなど、安心できる関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なこと、要望などを聞き、どのように支援していくか話し合いを行い、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いの中なら、必要としている支援を導き出し、多種のサービスの利用も検討しながら対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべて介助で行うのではなく、家事仕事などを一緒に行い、一日一日を支え合って生活する者同士としての関係ができています。一緒に行う事で職員が教えられることも多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いに会いたい時には会えるように、話したいときには電話できるように、状況がいつでもわかっていられるようにできる限り支援している。家族には協力をお願いすることもあり、一緒に本人を支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ビニールカーテン越しだがいつでも面会できるように支援している。馴染みの場所に出かけた時、馴染みの理容室に訪問していただき、デイサービスの利用者との交流も行っている。また電話や手紙でのやりとりも支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って関わり合えるよう支援し、気の合う関係ができています。お互いに支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても話しを聞き、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話などから本人の思いや希望する暮らし方のくみ取るよう努めている。困難な場合は家族や知人から情報を得た上で本人の視点に立って検討するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方、サービス利用の経過などを詳しく聞き、職員が共有できるようフェースシートを作成している。本人との会話から知り得ることも多く、ケース記録に記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状況など観察しケース記録に記入している。変化があった場合は日々申し送りをを行い、月末の職員会議では一人一人の状態を確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングの他、半年毎や必要時に介護計画の見直しを行っている。本人や家族の意見や要望を聞いた上で、職員を含め現状の課題と必要な支援を話し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのバインダーがあり、日々の様子や実践したケア内容、結果、気づいたことなど記入している。職員全員が目を通し、情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望などで生まれるニーズに対応するため、既存のサービスにとらわれることなく、柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8名が協力医でもある町立上ノ国診療所がかかりつけ医であり、1名は道立江差病院精神科がかかりつけ医であるため、定期受診の他、相談のある場合も受診の支援を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	判断に迷ったときや何気ない気づきなどを、隣接されている同法人のかみのくに荘の看護職員に相談している。体調不良時には様子を見に来てもらうことがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して治療できるように情報交換を行い、退院に向けての相談や、退院時の状態の把握など、看護師や地域連携室の職員と話し合うことが多く、関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療体制の説明を行い、重度化した場合の対応の指針を作成して説明し、同意を得ている。事業所ですることだけでなく、できないことも説明した上で、重度化した場合は地域の関係者と共に支援するよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒事故の初期対応について勉強会で学び、実践に役立っている。他の急変に備えた対応の仕方は書籍や実践から学び、身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、同法人事業所と合同で日中と夜間を想定して避難訓練を行っている。夜間の避難訓練ではかみのくに荘の警備員が参加し、実際の災害に備えている。また、停電、断水に備え、災害食を実際に作り訓練している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンに気を付けながら、個々の気持ちをくみ取れるよう、「どうしたの?」という言葉を大切に温かさのある言葉かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるよう会話する機会を持ち、行動に対しては見守りに重点を置き、他者に制限されることがないように努めている。納得した生活を送れるよう、指示ではなく自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日などある程度決まっているため職員側の都合を優先してしまっている部分もあるが、時には臨機応変に対応し、希望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は本人が好みの物を自分で選んでいる。修正が必要な場合は声がけし一緒に選び対応している。毎月、一人ひとりに、ヘアカットや白髪染め、顔剃りなどの希望を聞き、町内の理容室に訪問してもらいおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き献立に取り入れている。ご家族や知人から旬の食材をいただき栗ご飯や鯖の味噌煮など一緒に調理した。また、煮染めやうま煮などは職員が教えてもらいながら調理している。片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し観察している。水分摂取量の少ない利用者には好みのコーヒーなどを提供して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声がけできる方、一部介助が必要な方、ほぼ介助が必要な方がおり、それぞれに合わせた支援を行っている。拒否する方もいるが、入眠前には口腔ケアや義歯洗浄を行えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、排泄のパターンの把握に役立っている。自らトイレに行くことが難しい利用者には声がけして誘導を行っている。できるだけ失敗せずにトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食事を摂るよう心がけている。昼・夕食前の体操の他、歩行運動や散歩、レクなどにも運動を取り入れるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉の供給の都合で月曜日と木曜日が入浴日となっているが、この夏の暑さから、汗をかいて気持ちが悪い、身体がかゆい等の理由で個別にシャワー浴をするなど臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早く布団に入られる方もいれば、居室でゆっくりテレビを見ている方もいる。眠れずにいる方はフロアで職員と話し、眠くなるまでフロアで過ごすなどそれぞれに合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のバインダーに服薬内容を記載し、処方箋をファイリングしている。変更がある場合はミーティングや職員会議で状態の変化も含め細かく確認している。また、専用の用紙で服薬をチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事を続けてきた方、家事仕事を役割として毎日行ってくれる方、観葉植物への水やりを役割としている方、外が好きな方、歌うことが好きな方、字を書くのが得意な方、それぞれの力を活かして気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染リスクを考え、できる範囲で外出支援を行っている。外出先は希望される中から決めており、ソフトクリームが食べたいという希望で道の駅へ出かけたり、住んでいた家を訪問するなど行っている。また、散歩や外気浴、ゴミ出しなど、気軽に外に出られるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で所持していた方もいたが、今では一人もいない。お金は預かり、使用したいときに使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に書かれた手紙や、レクで大切な人に手紙を書く機会をつくり、手紙を送る支援をしている。家族の声が聞きたいという希望があれば電話を掛け、家族から電話があれば本人に取り次ぎいつでも話せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれ落ち着いた場所にあり、窓からは公園の桜や紅葉、夏には花火を見ることが出来る。共用の空間の中に不快や混乱を招くような刺激は無く、一緒に作った作品が飾られ、室内にいても季節が感じられるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に隔たりになるようなものはないが、ソファが置かれている部分や、テーブル席も分けられて配置され、気の合う者同士で過ごすことができている。また、山側の廊下に椅子を置き花や畑を眺められるよう工夫している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人が使い慣れた家具が置かれ、テレビや家族の写真などが飾られている。一人ひとり個性のある居室の中で居心地良く暮らせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレに目印を付けてわかりやすいように工夫している。浴室内も手摺りや滑り止めマットなどを配置し、安全でできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		